

側では環は細く、赤道面より捩れて約黄道面内に來り、長い尾を曳くといふ。この發光は、螢光か或は殘光であらう。春分時には、夜の光錐は、黄道の南に、朝の光錐はその北にあり、秋分時には、位置はこの反對である。

さて黄道光の夜の部分と朝の部分とは、相連なる。即ち圓錐の一つの頂點から他の頂點にまで、天空を渡つた、細い帯があるのである。これは約黄道面内にある。太陽より 30° の距離が最近接可視部であるが、帯は 40° 位の幅がある。太陽の軸に沿ふては 70° 位あらうといはれる。太陽から 90° の所では 20° 位の幅、 150° では 10° 位の幅になり、 180° では、帯が一寸薄い光の節となつて膨れ、對日照となすのである。ロシアで7月末、スウヰスで春分頃に寫した、黄道光の見事な寫眞も載せてゐる。小生は、遊星塵説信奉者である。

中央氣象臺發行の航空氣象報告には、都市の暈光の寫生が出てゐるが、黄道光や夜天光の研究は防空の見地からも重要である。

色 の あ る 星

多くの星は明瞭な色彩を現はして居る。單獨の橙色や赤色の星は極めて普通であるが、青や緑の星は大層稀らしい。然し、二重星の場合には色の違ひがずつと目立つ。黄（又は橙色）と青が一緒になつたのが屢々である。又、多くの場合には、緑がかつた色彩は、主星が黄色か橙色の場合に、青の代りをする。それで、多くの星は補色を現はす。斯様な場合には、假りに分星(components)の大きさが大變に不釣り合ひだとすれば、色が補色のものであるといふ事實は、唯單なる對照の影響であるらしく思はれる。然し、多くの場合に、實際は一定の色の光を放射する恒星や、二重星其の他の星がある事は疑ふべくもない。個々の遊星が、太陽の様に見做される之等の星の周りを廻轉して居ると考へて、彼様な遊星に分與された光は、極めて目立つた美しい影響を受ける。此の事は例へば、ガスの噴出、又は、蠟燭が、凡て深紅色か、他の色彩球内に隠されて居る應接室に於いて、時折見られるのと類似して居る。

形が大きくて、一定した色を現はす單獨星には、次の様な例がある：——

白色星——大犬座 α 星、獅子座 α 星、獅子座 β 星、南魚座 α 星、小熊座 α 星

赤色星——牛座 α 星、蝸座 α 星、オリオン座 α 星

青色星——駁者座 α 星、オリオン座 β 星、オリオン座 γ 星、小犬座 α 星、乙女座 α 星

綠色星——琴座 α 星、鶯座 α 星、白鳥座 α 星

黃色星——牧夫座 α 星

(“Pictorial Astronomy” より、佐登兒譯)